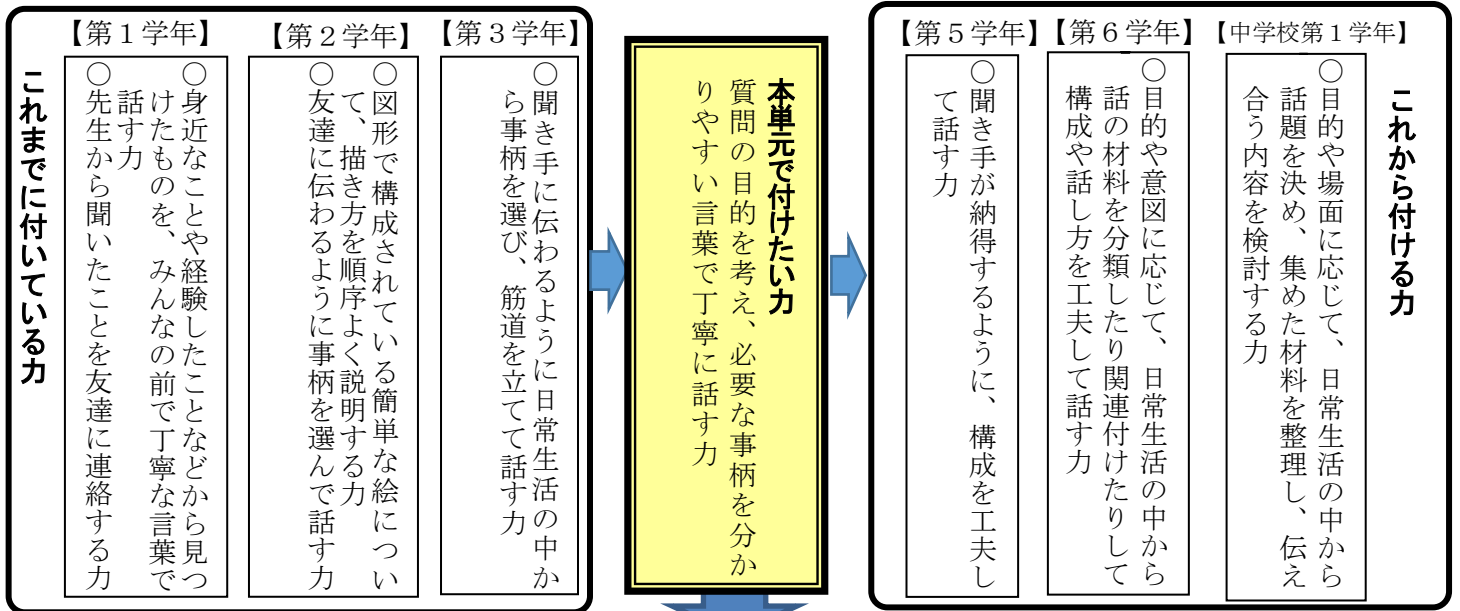


第4学年 国語科学習指導案

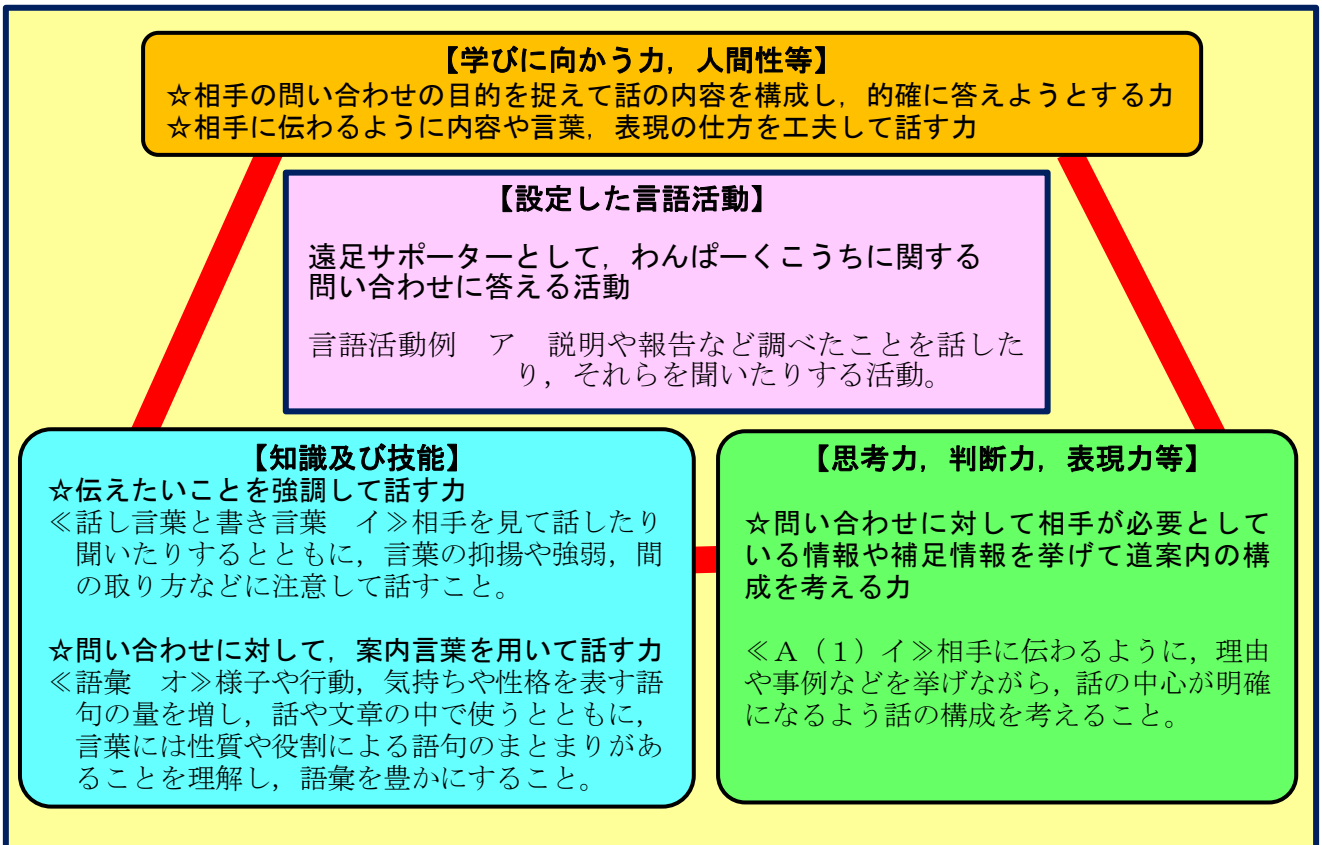
授業者：高木 美紗（4年1組）

【2019年度 研究テーマ】 学びに熱中する子どもの育成 —「見方・考え方」を働かせて、学びを深める国語科授業づくり—

- 1 単元名 わたしたち遠足サポーター
教材名 案内係になろう（東京書籍 4年上）
- 2 単元の系統性 A 話すこと・聞くこと



3 本単元で付けたい【資質・能力】と設定した言語活動



4 単元について

(1) 児童の実態

本校独自に実施している国語アンケートでは、国語の授業が楽しいと答えている児童が大半であった。一方で、「あなたは、自分の考えや思ったことを人に伝えたり発表したりすることができますか。」という問いに対しては、苦手意識があると答えた児童も見られた。話し方を工夫したり、聞き手に伝わるように話の構成を考えたりするなど、相手を意識した話し方には課題がある。

(2) 教材の特性

本教材は、「話すこと・聞くこと」の「話す」系統の単元である。高知市外の児童からのわんぱくこうちに関する問い合わせに対し、遠足サポーターとして必要な事柄を分かりやすい言葉で答える言語活動を設定した。わんぱくこうちは潮江東小学校の校区にあり、子どもたちがよく遊びに行くので、施設に関しては詳しく知っている。しかし、問い合わせに答える立場にある場合、自分の知っている情報を伝えるのではなく、相手の目的に応じた受け答えを意識しなければならない。また、お客さんの質問に遠足サポーターとして答えるため、分かりやすく、丁寧に話すことに必然性が生じる。このことから相手や場に応じた適切な言葉遣いを意識させることができると考えた。相手が知りたいことを考えながら話したり、話の中心が明確になるように構成を考えたりすることができる教材である。

(3) 指導の文脈

本単元では、問い合わせに対する答えが相手に伝わる内容かどうかを考えながら話す活動を設定した。

一次では、わんぱくこうちに遠足に来る高知市外の児童からのビデオメッセージを見て、遠足サポーターとして問い合わせに答えるという学習課題を確かめる。その際、一度説明をさせることで、問い合わせに応じて必要な情報を分かりやすく話すことの難しさを自覚させる。そして、どのようなことが分かれば解決できそうか見通しをもたせる。

二次では、教科書の活動場面や話例をもとに、どのように問い合わせに答えるとよいかを考え、話す練習をする。その際、「時間」や「場所」といった相手の目的となるキーワードに着目して答えるとよいことや、案内する時に使う言葉を用いて、相手の視点に立った案内をすることのよさに気付かせたい。また、問い合わせに対する答え方は様々ある。どのように説明すると分かりやすくなるのか、相手が知りたいことや、わんぱくお役立ち情報を挙げながら、話の構成を意識付けたい。その後のリハーサルでは、グループで内容や構成を再検討する。互いの答え方を聞き合うことで話し方や構成のよさに気付かせたい。また、聞き合う中で伝わりにくい説明があれば修正を加え、さらに明確で分かりやすい答え方にしていく。

三次では、二次での学びを振り返りながら、学習貯金したい内容を精査し共有する。その場面にふさわしい言葉を使って話す、話の中心を考えながら友だちの話の聞くといった活用に広げさせ、本単元のまとめとしたい。

5 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標 質問の目的を考え、必要な事柄を分かりやすい言葉で丁寧に話すことができる。

(2) 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】 《話すこと・聞くこと》	【主体的に学習に取り組む態度】
○時間や場所など、答えの中心を意識し、言葉の抑揚や強弱、問の取り方、資料の提示の仕方に注意して話している。 《(1) イ 話し言葉と書き言葉》 ○問い合わせに対して、一文の長さや目印の数に気を付けて、案内言葉を用いて説明している。 《(1) オ 語彙》	○問い合わせに対する答えが明確になるように、相手が必要としている情報や補足情報を挙げて道案内の構成を考えている。 《A (1) イ 構成の検討》	○相手の問い合わせの目的を考えながら、案内が分かりやすくなるように、内容や言葉を選んで伝えようとしている。

(3) 単元の学習内容と評価規準 (全5時間)

次	学習内容	知・技	思判表	態度	評価規準 【評価方法】
	児：見方・考え方を成長させる姿				
一 次	第1時 ・高知市外の学校からの問い合わせに答えるというこれからの学習の見通しをもち、教科書教材で答え方のイメージをつかむ。 児：案内言葉を使って、目印になる場所を伝えると目的地までの道のりが説明できたよ。	○			○問い合わせに対して案内言葉や目印を入れて道案内すればよいことを理解している。 【発言・ノート】 《(1) オ語彙》
	第2時 ・わんぱくこうちの地図で、道案内の仕方を考える。 児：目的地の場所を大まかに伝えてから行き方を教えてあげると、分かりやすい道案内になったよ。	○			○問い合わせに対して、一文の長さや目印の数に気を付け、案内言葉を用いて道案内している。 【発言・ノート】 《(1) オ語彙》
二 次	第3時(本時) ・質問の目的に合わせて自分の案内の構成を考える。 児：問い合わせに対する答えには、 ①問い合わせ内容の確認 ②相手の立場に立った案内 ③知りたいことに合った補足情報 を入れよう。		○		○問い合わせに対する答えが明確になるように、相手が必要としている情報や補足情報を挙げて道案内の構成を考えている。 【発言・ノート】 《A(1) イ話すこと・構成の検討》
	第4時 ・話し方を工夫してリハーサルをする 児：大事な言葉を話すときは間を取って、話したいことが伝わるようにしたいな。	○			○場所や時間など答えの中心を意識し、言葉の抑揚や強弱、間の取り方、資料の提示の仕方に注意して話している。 【発言・ノート】 《(1) イ話し言葉と書き言葉》
問い合わせに関する答えをビデオレターで送ろう！					
三 次	第5時 ・分かりやすい話し方のポイントを学級で話し合いながら、学習貯金を作る。 児：相手が何を言いたいのか、考えながら聞いたり、友達と伝え合ったりすることは普通の授業でも役立つと思うだ。			○	○相手の問い合わせの目的を考えながら、案内が分かりやすくなるように、内容や言葉を選んで伝えられたか振り返っている。 【発言・ノート】 《主体的に取り組む態度》
【単元のゴールの活用】					
○友達が何を言いたいのか、話の中心を考えながら聞くこと。 ○目的に合った言葉遣いで話すこと。					

設定した言語活動

遠足サポーターとして、わんぱくこうちに関する問い合わせに答える活動

付けたい力

質問の目的を考え、必要な事柄を分かりやすい言葉で丁寧に話す力

6 本時の学習

- (1) 目標 質問の目的を考えて、自分の案内の構成を考慮することができる。
- (2) 問うべき問い 「どんな情報でも付け加えていいの？」
- (3) 評価規準 ○問い合わせに対する答えが明確になるように、相手が必要としている情報や補足情報を挙げて道案内の構成を考えている。【発言・ノート】

学習活動

★評価規準

1 前時の振り返りをする。

- 前時の学習を振り返る。

2 課題をつかむ。

六年生にもっと喜んでもらえる案内にするには？

3 構成を考える。

- デジタル教材のモデル文を聞き、ポイントを考える。

ポイント① 問い合わせの確認

ポイント② お役立ち情報を付け加える。

問うべき問い「どんな情報でも付け加えていいの？」

- 考えを全体で共有する。

共有したい考え

質問と関係しているお役立ち情報を入れる。

質問内容につながる答えにする。

- ポイント①②を入れて話す練習をする。

★問い合わせに対する答えが明確になるように、相手が必要としている情報や補足情報を挙げて道案内の構成を考えている。【発言・ノート】

- 追加質問に答える。

○今までのポイントが使えているか、答え方のよさはどこかを考えながら聞き、全体で共有する。

4 振り返りをする。

- 今日の学びを発表させながら、ためになったことをメタ認知する。

◎本時の学習で国語的な見方・考え方を働かせている姿とは？

児童が、お役立ち情報を考えるうえで、言葉と言葉（問い合わせと答え）言葉と対象（答えとお役立ち情報に関する資料）を関連付けながら捉えること【見方】で、どのようなお役立ち情報が相手の目的に沿っているのかを自分なりに考えたり、友達と相談したりしている【考え方】姿である。